

平成 29 年度光産業技術標準化会総会

平成 29 年度の光産業技術標準化会の総会を平成 29 年 7 月 3 日（月）、東京一ツ橋の如水会館にて、59 名の参加者の下、開催した。



会場風景

当協会専務理事 小谷泰久の主催者挨拶の後、来賓の経済産業省 産業技術環境局 国際電気標準課 課長の森田健太郎氏より、「市場を拓く標準化ビジネス戦略」と題した講演がなされた。森田課長の講演では、まずビジネスにおける標準化の意義について確認された後、諸外国が戦略的に標準を活用していることを、例を挙げて説明された。中でも中国・韓国が若手を多数参加させるなど、その存在感を大きく増大させている中、ドイツやフランスが中国人議長をサポートしている例が多いことに懸念を示された。また最近の環境変化として、Industry 4.0 に代表されるような様々なつながりによる新たな付加価値創造を実現する上で、国際標準化が極めて重要になっていることを強調された。今後の対応策として、標準化の重点が技術・製品からそれらのつながり又は社会システムへと移り、また標準化プロセスの着手のタイミングがマーケット総取り型からマーケット創出型に移る中で早期化しており、工業標準化法を改正してスピード重視の方向性を検討中であることが紹介された。



小谷泰久 専務理事



森田健太郎 課長



鈴木教洋 常務

次に、総会の議長として、株式会社 日立製作所 CTO 兼研究開発グループ長 執行役常務の鈴木教洋氏が選出され、鈴木議長のもとで、2016（平成 28）年度光産業技術標準化会事業報告および 2017（平成 29）年度事業計画の審議が行われ、異議なく承認された。



横川文彦 氏

休憩をはさみ、元 パイオニア株式会社 総合研究所の横川文彦氏による、「光ディスクの規格開発－DVD 及び BD（ブルーレイ・ディスク）のデファクト規格とデジュール規格」の特別講演があった。パイオニア株式会社時代に貫して光ディスクシステムの開発に従事されていた横川氏は、デファクト標準では、DVD フォーラムにおいて DVD-ROM の規格策定、BDA において BD-ROM の規格策定を担当され、デジュール標準では、ISO/IEC 規格において DVD-ROM および BD-R SL/DL のエディタを担当され、JIS において DVD-ROM 規格および BD 4 規格の編集を担当された。このような DVD および BD の規格開発における豊富な経験から、デファクト規格化で生じた規

格戦争やデジュール規格化で生じた国際規格と JIS の関係についての話題を交えながら、それらの歴史を紹介された。

直径 12 cm の光ディスクのデファクト規格については、CD および DVD はアナログからデジタルへの流れで策定されたのに対し、BD は DVD をさらに高画質にという目的で策定されており、2002 年から 4 世代にわたって追加されてきた規格は 2015 年には 4K 映画出版にまで対応できるようになっている。大容量のデータを低コストで短期間に出版するメディアとして、今後も ROM 型媒体として使用され続けるであろう光ディスクは、また、データの長期保存性能が寿命推定方法やデータ移行方法のデジュール規格で裏付けされている記録型媒体としても、今後ますますその役割が重要になると、横川氏は締めくくられた。